

グループ：喜多、橋浦、長谷川、林、宮本、岩永、阿部、屋成

日時：2006年10月25日

講師：ハダ工芸社 製作統括部 統括部長

一級建築施工管理技師 上原 康熙

1、上原さんの略歴

福岡大学を卒業後、大阪の設計事務所に勤めるが数年で辞め、現在の株式会社ハダ工芸社に入社する。

2、上原さんの話

～建築とその演出について～

ハダ工芸社に入社に入社して24, 5年だが、ハダ工芸社には建築学科を卒業しているのは上原さんだけで、他の人は芸術学部やインテリア関係の人が多し。仕事は建築もやっているが、建築の演出の仕事をしている。

(スライド)

演出というのは、大きく分けて展示工事、商業施設工事、サイン工事の3つである。設計者や施工者が建築物を作った後に、使われる内容によって演出を変える。例えば文化施設であれば中の展示物の展示工事(例：九州国立博物館の展示物)、商業施設であれば中の店舗の工事、そして文化施設や商業施設などの建築物には必ずサインがついてくる。そのサイン工事。この3つ+αで演出の仕事をしている。

ハダ工芸社が関わった物件

<展示工事>

・国立博物館

雑誌：年間ディスプレイで賞を獲った施設。2002年、千葉の幕張での恐竜博の展示工事として、恐竜の実物大の模型や化石を展示する工事をする。

・東京モーターショー

年に1回行われていて1年がかりで設計する。幕張の大きな建物の中に作る時、写真の大きい造形物は1週間で作ってしまう。なので工場でかなり作りこんだやつを現場に持ち込んで、大きな重機を使って組み立てていく。こういう展示工事は建築ではほとんど無い。

<商業施設工事>

アクリルをコンクリートの中に仕込んで、研磨作業をして現場に取り付ける

<サイン工事>

・病院

昔の病院とは違い明るくなり、サインも見やすく、わかりやすく、楽しくなり、こういうグラフィック的な要素が今サインの中に入ってきている。昔は設計者が建物を立てて、サインが入るが、設計者は自分の建物を見せたいからサインはあまり付けたくないという人が非常に多い。サインのデザインもデザイン化していなかったが、最近は設計者も設計段階でサインの意識があり、打ち合わせから入り、グラフィック的なことや色やピクトの種類や文字の形を一緒に打ち合わせするという状況になってきている。

・商業ビル

建物全体がサインというイメージ。こういうサインも今街中に出ている。

・福岡国際会議場

3年前に日建設計と梓設計で建設された。そして再工事としてハダ工芸社が設計と施工を行った。

サインを考えるときに書体を考慮する。(和文、英文、マークなど)そしてカラープランも考慮する。これを繰り返して最終的なサインが決まる。

サインのリストを作る。名称サインは建物の上の方に付いていて遠くからでも建物がわかるようにするものや、近くに付いていて駐車場などの場所を示すものがある。また建物内のインフォメーションの隣にある総合案内サインや目的地に誘導する誘導サインなどがある。これらのリストを図面に書き込んでサインの場所がわかるようにする。

身障者対応として車椅子の方でも見れるように壁にかけられている案内板などは下の方で斜めになっている。

案内板の横には掲示板を設けている。

言葉ではなく絵文字のようなものなどを使って視覚的にわかるサイン(例えばトイレのマーク)もある。昔であればトイレのマークも10cm角でわかりにくかったが、最近は大きなものが多い。

室名は位に応じてグレードアップするようになっていて、昔は板いっぱい室名を書いていたが、最近はデザインを意識して板に対して文字を左上に詰めるなどして空きのスペースを作ることが多い。

公共施設では身障者対応として、トイレなどの案内板に点字サインを必ず設けなければならない。

避難経路図は普段あまり誰も見ることは無いが、設計するのに時間がかかる方のサインの一つである。

・アクロス福岡

前に県庁があった場所を使って11年前に作られた公園や県の施設、商業施設、一般テナント、イベントホール、シンフォニーホール、国際会議場などがある複合施設である。

コンペは日本設計と竹中工務店と外国の設計者の中から決まり、特徴は公園から見たとき、建物が植栽で埋め尽くされていることにより森のように見えることである。

西棟と東棟に分かれていて、途中までしか上がらないエレベーターなどもあり動線が複雑になっている。

設計段階からサインについての話し合いを東京の設計者と行い、施工段階でもはやいうちに計画されていた。

色彩は白と黒とグレーを基調としたもので、総合プロデューサーの方がモノトーンな感じが好きであったためらしい。そのため地下1階2階の商業施設へのお客が少ないので、オレンジ色を使ったサインを作った。

外の柱のようなサインは高さ3m90cmで、建築確認申請という書類を役所に出すとき、工作物も4m以上は申請をしなければいけないので、申請をしないでいいようになっている。

今までは商業施設だけがサイン工事でリニューアルされていたが、現在建物全体をサイン工事でリニューアルする計画がある。その計画の一部として、商業施設部分と公共施設部分とテナント部分の3つにグループ分けをして、建築物の壁面を使った大きなサインを計画している。

・九州国立博物館

菊竹設計と久留米設計が1年前に設計したもので、基本的なサインは菊竹さんが設計されていたのを引き続きハダ工芸社が実施設計を行った。また、展示工事も行った。オープン直前に青銅の円形のサインが外部に設計された。

他の色々なサインの物件

福岡市のサインで陶板に文字を焼付けし、周りが御影石になったものがある。

キャナルシティはアメリカの方の設計で当時は日本人には使えない色使いとして話題になった。九大の佐藤先生がこの色を学生を使って調べると、色相がサイドに関してはほとんど一緒であることがわかった。またサインの色使いも日本人が使えない派手な色を使ってある。

地下鉄七隈線では構想から10何年かかっており、各駅のモジュール関係をそろえて設計されている。また、駅によって壁面の仕上げを全部変えてあり、入り口部分の動線は光を取り入れるというコンセプトなので、素材にガラスが多く使われている。そこで光の取り入れ方というのも各駅によって異なっている。ゴミ箱や椅子も全部寸法を合わせて作られている。

筑豊の小学校のサインは素材が木材を多く使ったもので、それに合わせて楽しいサインにしようということだったので、色鉛筆やビー玉、鈴など各教室に合わせ素材を使い、視覚的に教室名を表示するサインになっている。

コンピュータ関係の会社のサインしすてむでは、色とスピードというイメージで曲線が使っていたり、色も楽しい色使いになっている。サインの造形も壁面を使った大胆なものになっている。サインの文字やマークの色は基本的に白やグレーや黒を基調としており、周りのベースとなる色は壁面から色彩計画を行って建物自体で表現されている。

佐賀の健康運動センターでは、佐賀の特色であるクリークをイメージしたサインになっている。床に緑やオレンジのグリッドを入れることで建物で表現されている。

横浜のみなとみらいの地下鉄では、七隈線と同じように周りからわかりやすいサイン表示を行っている。

東京のホテルのリニューアルのサインでは女性向けの女性に優しいホテルにリニューアルしようということだったので、文字にピンクを使ったり、レイアウトを意識したりしている。

大学の新校舎ができたことで、サイン関係の見直しをしようということで、大胆に柱や壁面に写真を貼り、それに総合案内板などをを入れている。給湯室やラウンジなどの室名は壁面に大きなマークを貼ることで表現されている。

大分の運転免許のセンターでは、サインの色と文字を大きくすることで、場所がわからないということがストレスとなるので、ストレスを感じないようにどこからでも自分が行きたい場所がすぐわかるようになっている。

大分のキャノン大分事業所という工場では、設計と同時進行でサイン計画を行った。色を大胆に使ったり、昔はプレートにただ文字を入れるだけのものを、建築の壁面をそのままグラフィック処理して文字をいれ、上からは間接照明が当たるようになっている。

国立科学博物館では、展示工事とサイン工事が一緒になったような建物になっている。ベースは黒になっていて、誘導サインや共有サインなどは中の展示物と同様の見せ方で設計されている。

ユニバーサルサインは世界中の誰が見てもわかるようなピクトで表現されているサインで、これを日本で初めて全体的に使って設計された空港が名古屋にある。絵や記号でどれだけ直感的に訴えることができるかがポイントとなっている。

とある病院のサインでは、各ゾーンにより壁面などの色を変えることにより、エントランスで色を見れば自分がどこに行けばいいのかわかる仕組みになっている。フロアや室名も大胆に表現されている。

とある高校でも大胆な階数表示をグラフィック処理されている。1階を「木」というイメージで職員のものとして、2,3,4階は「葉」のイメージで生徒のものとなって、木が葉を育てるというイメージで作られている。

とある庁舎では地元の色である5色を書くゾーンに振り分けてサイン設計されている。

国宝級の文化施設では、設計でも1ミリずれていただけで、作り変えなどと言われたりする。虫などが出ないかどうか重要になってくるので防虫材を使うが、中に国宝があるので虫に食われるようなことがあってはならないことから、1年間ほったらかしにして本当に虫が出ないかどうかまでチェックする。

3、質疑応答

Q, 上原さんは建築学科を出られてどういうきっかけでサインのデザインに携わろうと思われたんですか。

A, はじめハダ工芸社にはどういうことをするのかわからないで入った。設計事務所の作品を持っていったら採用された。大濠公園の博覧会の仕事が初めての仕事で、建築とは違い現場によって違う仕事をしていておもしろいと思った。なおかつ建築の知識を持った人があまりいなかったのも、ちょっと専門的なことを言えば驚かれた。

Q, サインは建物が出来てからまったく新しく考えるものなんですか。

A, 当初は建物が決まってからサインをただプレートに張り付けるようなものであったが、最近では光を使ったサインなど設備にも関わってくるので、設計段階で打ち合わせするようになってきている。

Q, アクロス福岡の商業施設でオレンジを使っていたが、色を決定するのはどのようにして決めるのか。

A, グレーとオレンジは相性が良いし、1番の目的として目立たせようというのがあった。

4、まとめ

今日の資料では建築物は無かったが、演出工事としてお話したが、20何年前はこういう仕事には建築関係の人はなくて、デザイン関係の人ばかりだった。最近では打ち合わせの上で建築の知識などが求められてくるので、こういう関係の仕事もあるんだということを紹介できてよかった。